LSM-VIA | バージョン 1.10.25
リリースノート

（2025 年　6 月）

Photron

警告

- **LSM-VIA 1.10は、XClient-VIAユニット上のOSとしてRocky Linuxのみをサポートしています。 CentOSのサポートは終了しました。 そのため、現在CentOS上でLSM-VIA 1.7またはLSM-VIA 1.8を実行している場合、LSM-VIA 1.10バージョンの導入は非常に重くなります。 CentOSからRocky Linuxへの具体的な移行手順については、 この具体的な手順については、本リリースノート末尾の「デプロイメント」セクションをご参照ください。**
- **現在 Rocky Linux 上で LSM-VIA 1.8 または LSM-VIA 1.9 を稼動させている場合、LSM-VIA 1.10 へのアップグレード時に Rocky Linux 9.5 へのアップグレードを強くお勧めします。アップグレードは「オンラインモード」または「オフラインモード」で行うことができ、システムの完全な再ゴーストは必要ありません。LSM-VIA インストールガイドの「ワークステーションのオペレーティングシステムのアップグレード」の手順を参照してください。オフライン・モードでのロッキー Linux アップグレード中は、システム・インターフェースのグラフィカルな要素が一時的に使用できなくなります。 その結果、プロセスの一部で、フィードバックがないか最小限の黒い画面が表示されることがあります。 この動作は予期されるもので、故障を示すものではありません。**
  - **オンライン・オペレーティング・システムのアップグレードは、ドライバーの非互換性などの潜在的な問題や、アップグレードの不具合を引き起こす可能性のある予期せぬ複雑な要因のため現在サポートされていません。**
  - **LSM-VIA 1.10 は Rocky Linux 9.6 とまだ互換性がありません。**
  - **システムの安定性と最適な応答性を確保するために、EVS が公式に発表しているオペレーティングシステムの互換性ガイドラインを常に遵守してください。**

新しい機能

バージョン 1.10.25

> プレイリストのオーディオスワップ機能がキーフレームに対応し、オーディオスワップを定義したり、プレイリストアイテム内の任意のTimeCodeでトラックをミュートできるようになりました。

> LSM-VIAのウェブ・コンフィギュレーションからキーワード・ファイル・エディターが利用でき、オペレーターはローカルのキーワード・ファイルを編集することができます。 LSM-VIAコンフィギュレーションはキーワード・ファイル・ライブラリの管理にも対応しており、ユーザーはプロダクションで使用するすべてのキーワード・ファイルを簡単に管理できます。

> LSM-VIAリモート・パネルの専用ボタン ″Edit ″を使ってプレイリスト再生モードからプレイリスト編集モードに切り替えると、アクティブなプレイリスト項目は現在のTimeCodeでロードされたままとなり、INポイントに再保持されなくなります。

> SearchTC機能のデフォルト設定は、″Clip ″のみではなく、″Clip+REC ″になりました。

> LSM-VIAリモートのプレイリスト・インターフェースを見直し、ユーザーの感覚を改善しました。

> LSM-VIAは、近日リリース予定のZoomアプリケーションに関連するEVSソフトウェアサーバーと互換があります。

> ユーザーのセッションをロック、またはアカウントを切り替えるショートカットを「Windowsキー ＋L」から「CTRL＋Windowsキー ＋L」に変更しました。これは、ALT＋L ″でローカルに戻ろうとしたときに、誤ってセッションをロックしてしまうのを防ぐためです。この変更はISOレベルで実施され、ISOパッケージを使用してアップグレードされたシステムにのみ適用されることに注意してください。

> キーボードショートカット「Windowsキー＋D」がデフォルトで有効になりました。このショートカットにより、ユーザーはLSM-VIA Workstationのデスクトップを素早く表示し、すべてのアプリケーションを縮小することができます。この変更はISOレベルでも実施され、ISOパッケージを使用してアップグレードされたシステムにのみ適用されることに注意してください。

バージョン 1.9.20

> LSM-VIA 1.9は、Multicam 21.0でXTサーバーに導入されたデュアルPC LAN機能をサポートしています。 サーバーの2つ目のPC LANインターフェースは、LSM-VIAの設定から使用することができ、この追加ポートを介しLSM-VIAを適切に接続します。
> LSM-VIA 1.9は、Multicam LSM、SpotboxまたはSportlightモードのXT-VIAサーバーと互換性があり、設定されたサーバー・モードで使用可能な機能セットを備えています。
> EVSサポートチームが生成する新しいLSM-VIAライセンスは、"Exclusive "モードではなく、"Aggregate "モードで生成されます。 新しいライセンスは、既存のライセンスの上にインストールするだけです。
> プレイリストのUndo/Redoは、前世代のLSMコントローラーと比較して主な改良が加えられています:
  - ロードされたプレイリストのみに限定されなくなりました。 編集履歴は、すべてのローカル・プレイリストで利用可能です
  - 編集操作は10回までの制限がなくなりました
  - オペレータは、プレイリストをアンロードしても、編集履歴を失いません
  - "Undo "するたびにプレイリストの先頭にRECUEすることがなくなりました。
> ブラウズモード "は、Xnetで利用可能なすべてのレコーダーをブラウズするために利用可能です。 このモードはロードされたレコードトレインまたは "Trains "機能からトリガーできます。 このモードは "Trains "機能内のアクティブフィルターとも互換性があります。
> クリップのキーワードと評価は、サーバー上でクリップを作成する前に、オペレーターがINまたはOUTポイントを定義した時点で定義することができます。 この機能には、レコードトレイン上でINまたはOUTポイントが定義された時点で、LSM-VIA RemoteのEdit Metadataインターフェースを表示するかどうかを設定するパラメーターが含まれています。
> LSM-VIAリモートのFlag for Archive機能には "Clip mode "が用意されています。
> リモート画面にEdit Metadataインターフェースが表示されている場合、リモートパネルでFlag for Archive機能を使用できます。
> リモートパネルのCLEAR + IN/OUTキーの組み合わせで、レコードトレインのオペレーターが定義したIN/OUTポイントをクリアすることができます。
> LSM-VIA MultiReviewアプリケーションに2つの新しいレイアウトが追加されました: 10 (5+5) & 8 (2+3+3)

バージョン 1.8.53

> LSM-VIA 1.8は、XClient-VIAユニット上のOSとして、CentOSに加えて、Rocky Linuxをサポートしています。 リリースパッケージには、各OS専用のLSM-VIAインストーラーとISOイメージが用意されています。

バージョン 1.8.45

> LSM-VIAは、XS-VIAサーバーのXSenseモードと互換性ができました。この構成では、XS-VIAの可変速再生が使用できないため、LSM-VIAリモートのレバーは再生開始/停止コマンドのトリガーとしてのみ使用できます。しかし、プレイリスト編集モードでは、レバーは使用可能です。
> アングルごとに異なるIN/OUTポイントを持つクリップを作成可能。オペレーターは、LSM-VIAの設定にある新しいパラメーター "Clip Creation Boundaries (IN & OUT) "によって、この新しい動作と従来の動作(すべてのアングルで同じIN & OUTポイント)を切り替えることができます。
> プレイリスト編集モードでは、LSM-VIAリモートから "Sort by TC IN "が使用できます。
> LSM-VIA Viewerアプリケーションのプレイリストパネルが改善されました:
  - プレイアウト中の残り時間の表示を改善、
  - プレイアウト時のプレイリストスクロールロックの有効/無効を設定できるようになりました、
  - すべてのプレイリスト項目を選択するCTRL+ Aショートカット、
  - ミュート、スピード、エフェクト、Fx Dur、オーディオ・スプリットの複数選択編集を再構築、
> LSM-VIAリモートのプレイリスト・インターフェイスは、ユーザー体感を改善するために見直されました、
> LSM-VIAコンフィギュレーションのインポート/エクスポート機能により、システム設定のリストア/バックアップが可能になりました。
> コントロールされているプレーヤーにプレイリストがロードされている場合、ライブモードでマークポイントを設定することができるようになりました。
> 高速ジョグオプションがマルチレビューモードでも使用できるようになりました。
> ClipsをVIA-Xsquare経由でエクスポートする際、"同じEVSサーバーソース "の宛先の "restricted range "オプショ

ンが適切にサポートされるようになりました。(少なくともVIA-Xsquare 4.9が必要です)。
> ProRes 4Kコーデックが、すべてのエクスポート＆フラット化ワークフローで適切にサポートされました。

バージョン 1.7.26

> LSM-VIA 1.7 は、Multicam 20.5 との互換性に加えて、Multicam 20.6 とも互換性があります。

バージョン 1.7.25

> 長押しによってコンテンツを LSM-VIA リモート ショートカット ボタンにマッピングするタイマーが、600 ミリ秒から 1 秒に増加されました。

バージョン 1.7.14

> **LSM-VIA は MultiReview 機能を提供するようになりました。**

LSM-VIA MultiReview は、LSM-VIA ユーザーがネットワーク全体からレコーダーを操作できるようにする高度なモードです。
これは、ネットワークのすべての EVS サーバー レコーダー チャネルからのフィードを表示および参照し、魅力的なカメラ アングルを選択してクリップを作成およびエクスポートしたり、プレイリストを構築したりするために使用されます。
LSM-VIA MultiReview 機能は、専用の "LSM-VIA-MRV" ライセンス コードが XClient-VIA ユニットにインストールされている場合にのみ使用できます。

> LSM-VIA コンフィグ ツールは、サーバー プレーヤーを LSM-VIA オペレーターに割り当てるためのより柔軟な機能を提供します。
各オペレーターは、連続したプレーヤーのみを選択するという制約付きで、特定のプレーヤーを個別に選択できます(オペレーターごとに最大 3 つのプレーヤー チャネル)。
一部のサーバー プレーヤーは、他のプロトコルによって排他的に制御されるように、LSM-VIA コンフィグで割り当てられないままにすることができます。

> LSM-VIA は、異なる PC LAN ネットワーク上にあるネットワーク EVS サーバーのコンテンツに完全にアクセスでき、これは、特定のイベントのために複数の OBTruck を相互接続する必要がある場合に特に役立ちます。

> Pref. CAM の概念が EVS サーバーでまだ定義されていない場合、Growing クリップをより速くロードできます。

> LSM-VIA Viewer から特定のページ/バンクに移動するには、1 桁 (ページのみ) または 2 桁 (ページ + バンク) を入力し、F7 キーボード ショートカットを押します。

> LSM-VIA Viewer アプリケーションの Playlist View に移動すると、LSM-VIA は、以前に選択したプレイリストではなく、前のクリップ グリッド ナビゲーションに対応するプレイリストに移動します。

> LSM-VIA Viewer から、現在のサーバー クリップ グリッドと、以前にアクセスしたサーバー クリップ グリッドの間を行き来するには、SHIFT + F9 キーボード ショートカットを使用します。

> LSM-VIA の再起動が必要なコンフィグ パラメータを更新する場合、オペレータには、コンフィグ ツールから直接 LSM-VIA を再起動するオプションがあります。

> LSM-VIA セットアップを構成するエンジニアは、LSM-VIA コンフィグ ツールから "EVS Server connection check" ボタンにアクセスして、ローカル サーバーに適切にアクセスできるかどうか、および LSM-VIA とサーバー間の接続が正常かどうかを確認できます。

> VIA-Xsquare 4.7 がセットアップに導入されている場合、LSM-VIA オペレーターは、専用ボタンまたは F11 キーボード ショートカットを介して、LSM-VIA Viewer アプリケーションから VIA-Xsquare モニタリング ツールにアクセスできるようになります。

> 接続情報は、接続されている LSM-VIA リモコン、XClient-VIA、ローカル XT サーバーのLSM-VIA Remote About メニューで確認できます (PC LAN アドレス、ホスト名、XNet 番号と名前)。

> LSM-VIA リモコン ショートカットの改善:

○ Shortcuts カテゴリが再編成されました。
制御されるチャンネルに影響を与える機能と LSM-VIA 制御モードへのショートカットが "Control" カテゴリに再グループ化されました。
ネットワーク コンテンツまたはサーチ ワークフローに関連する機能は、"Content Access" カテゴリに再グループ化されました。

それに応じて、“Generic” カテゴリのコンテンツが削減されました。
○ ″Multi-PGM″ & ″PGM+PRV″ 制御モードへのショートカットが、“Control” カテゴリに追加されました。

バージョン 1.6.30

> VIA-Xsquare 4.6 との互換性により、Export ワークフローに関して次のことが可能になります：
○ソース XT サーバーを宛先サーバーとして使用します。
○EVS.xml からの LSM-id を保存して、宛先として使用します。

バージョン 1.6.19

> 制御されている最小のプレーヤーにロードされたクリップのタイムコードは、LSM-VIA Viewerから（Clip & CAM モードの両方がサポートされています）、現在ロードされているタイムコードで再ストライピングできます。
> クリップのKeywords & Ratingは、すべてのアングルで同時に編集できます（Clip モード）。
> オペレーターは、特定のクリップの全てのアングルを一度に VIA-Xsquare ターゲットにエクスポートできます（Clip モード）。
> 最小制御プレーヤーにロードされたレコード トレインの一部は、最初にローカル XT サーバーでクリップを作成する必要なく、LSM-VIA Remote ショートカットにマップされた VIA-Xsquare ターゲットにエクスポートできます。
> リモート ワークフローにおける LSM-VIA の改善：
○高いレイテンシーの場合でも、クリップ作成ワークフローが適切に保護されるようになりました。
（以前は、レイテンシーのため、OUT点でサーバーの応答を受信できなかったため、オペレーターが″OUT″の直後に″Save″を押した場合のみ、IN でクリップが作成されました。）
○全ての基本的なチャネル制御操作の応答性が改善されました
（Jog、Lever、Play、Load、Live、Swap、Sync to、Next、Skip、Step、Freeze）。
> LSM-VIA Remote ショートカットの改善：
○“Export”機能は、“Generic”セクションからアクセスできます。
○キーワードファイルで定義された任意のキーワードをショートカット ボタンにマップして、高速なメタデータ タグ付けを有効にすることができます。
○レコード トレインの REC Nameは、すべてのショートカット インターフェースで LSM ID の上に表示されます。
○リモート パネルの CLEAR キーを使用すると、ショートカット マッピングをすばやくクリアできます。
> LSM-VIA ユーザー インターフェースの改善：
○LSM-VIA Remote ヘッダーに表示される情報が見直され、現在のページ/バンクの表示が大きくなりました。
○インストールされている LSM-VIA のバージョンは、LSM-VIA Web web configuration toolに表示されます。

バグ修正

バージョン 1.10.25

> オーディオスプリットを含むプレイリスト内のプレイリストアイテムを削除するとき、その結果がガードバンドなしでクリップ間のオーディオスプリットトランジションにつながる場合、削除操作はXT Serverによって拒否されました。 この場合、以下のエラー通知がオペレータに表示されました：「アイテムの削除に失敗しました、スプリットトランジションは再生できません」。 削除コマンドは、エラーなしで、適切に考慮されるようになりました。

> オーディオスプリットを含むプレイリストで、プレイリスト項目の速度を編集すると、時々失敗し、定義された速度が以前の値に戻されていました。LSM-VIA 1.10 & Multicam 21.1では、スピードの編集に失敗することはなくなりましたが、プレイリストアイテム間の移行がEVSサーバーで再生不可能になる場合、問題のあるオーディオスプリットがリセットされます。

> オペレーターが ″Add CUT ″機能を使ってプレイリストアイテムを2つのサブクリップに分割しているとき、2つ目のサブクリップをミュートして2つのサブクリップの間でオーディオフェードアウトを定義しようとすると、EVSサーバーはオーディオのCUTトランジションを再生し、フェードアウトを正しく再生できませんでした。このAudio Splitの制限は今後も残り、XT Serverリリースノートに記載されています。

しかし、このFade to Muteユースケースは、LSM-VIA 1.10で導入されたAudio Swapキーフレーム機能によって適切に管理できるようになりました。

> 挿入/削除操作の後にプレイリストの元に戻す/やり直し機能を使用すると、プレイリストが正しいプレイリスト項目に再ロードされないことがあった問題を修正。

> ローカルサーバーの負荷が高い場合、プレイリストからアイテムが削除され、その後サーバーから対応するクリップが素早く削除されると、LSM-VIAソフトウェアは、削除されたクリップがビューアーのクリップグリッドとリモートのFキーに表示されたままで、サーバー側には存在しないという矛盾した状態になることがありました。最終的に、この一貫性のない状態は、新しいクリップを作成するために、オペレーターがレコーダー上でINまたはOUTポイントを定義することができなくなるという、劣化した動作につながっていましたが、それらを修正しました。

> インターレース形式での作業時に、ドットフィールド上でIN点を定義した場合、IN点は次の非どっとフィールド上で適切に定義されましたが、MultiViewerとLSM-VIA Remoteパネルが定義されたIN点を表示するように更新されなかった問題を修正。

> LSM-VIAリモートショートカットキーを使用して読み込んだクリップにキーワードを追加する際、メタデータ編集インターフェイスの ″CAM / Clip ″トグルが ″Clip ″に設定されていても、キーワードは常にCAMモードで追加されていた問題を修正。

> SearchTCまたはOtherAngleの検索結果に表示されたクリップが削除され、ブラウズ機能を使用して読み込まれた検索結果からそのクリップにアクセスしようとした場合、削除されたクリップがLSM-VIA Viewerのクリップグリッドに再表示され、そのクリップはもう存在しないにもかかわらず、クリップが表示されていました。その後にユーザーがロードしようとするとロードできず、LSM-VIAでゴーストクリップが生成されました。LSM-VIA 1.10では、削除されたクリップは結果から直接削除され、ユーザーはそのクリップにアクセスできなくなり、ゴーストクリップはインターフェイスに表示されなくなりました。

> クリップのガードバンドに黒いピクチャのみがあり、クリップの Short-IN がドットフィールドに設定されている場合、クリップがプレイリストに挿入されると、クリップの IN ポイントが次のフレームではなく前のフレームにシフトしてしまうことがありました。その結果、Flatten後にPlaylistを再生すると、クリップの最初に黒いフレームが表示されていた問題を修正。

> 新しい空のプレイリストに最初のクリップを追加する際、LSM-VIA Remoteのメイン画面から ″Export Playlist ″機能が使用できなかった問題を修正。。
> LSM-VIAの実行中にVIA-Xsquareを再起動した場合、VIA-Xsquareが再び利用可能になると、LSM-VIAは利用可能なターゲットを回復できなかった問題を修正。
> IPDirectorを使用してコントロールされているプレーヤーからメディアをイジェクトすると、プレーヤー上に黒い出力が発生し、LSM-VIAからクリアできませんでした。 LSM-VIAの ″Back to LIVE ″機能により、黒出力をクリアすることができます。
> XSenseまたはSpotboxのコンフィギュレーションでは、LSM-VIAリモートレバーを使用して、プロダクションネットワーク上の他のXTサーバーからSLSMコンテンツを100%再生することができませんでした。レバーは、SLSMのネイティブスピードが最大になります。
> LSM-VIA MultiReview Modeを使用する際、起動時に ″Load last session ″オプションを選択した場合、画面上部に表示されるLive TCが、最後に確認されたTimeCodeでフリーズして表示されることがあり、TimeCodeの問題がある間にオペレーターがクリップを作成した場合、クリップは間違ったTimeCodeで作成された問題を修正。
> XClient-VIAのPC LANアドレスが更新されると、LSM-VIAワークステーションは、セットアップのどこかに配置されていたかをセンタライズVIAライセンスマネージャによって自動的に検出されなくなっていた問題を修正。
> LSM-VIA Workstation上でLSM-VIAソフトウェアがクラッシュした場合、取得したCore Dumpファイルの圧縮が正しく行われないことがあり、このような場合、ワークステーションのハードドライブが完全に一杯になり、LSM-VIAが正常に起動できなくなることがあった問題を修正。

バージョン 1.9.22

> LSM-VIA Remote ShortcutsからRecord Trainをロードする際、コントロールされているPlayerのConditional Modeにビッグプレイリストがロードされていると、LSM-VIAソフトウェアがクラッシュすることがあった問題を修正。
> ショートカットキーにマッピングされたネットワークレコードトレインがプロダクションネットワーク上で利用できない場合、LSM-VIA Remoteを起動できないことがあった問題を修正。
> 新規クリップを作成した後、LSM-VIAリモートからメタデータ編集画面にアクセスすると、リモートパネルがフリーズしメタデータ編集画面から抜け出せなくなることがあった問題を修正。
> プロダクションネットワーク上でNetwork XT Serverのネット名が変更された場合、LSM-VIA Viewerアプリケーションの Recallインターフェースが更新されず、以前のネット名が表示されたままだった問題を修正。

バージョン 1.9.21

> ネットワークプレイリストがローカルプレーヤーにロードされ、ネットワークオペレーターがロードされたネットワークプレイリストを削除した場合、LSM-VIAソフトウェアがクラッシュすることがあった問題を修正。
> LSM-VIA Viewerのクリップ・グリッドで異なるページとバンクに移動する際、クリップ・コンテンツをインターフェイスで視覚化するのに異常な遅延が発生していました。 この遅延は、そのページ/バンクにオペレータが既にアクセスしている場合でも発生しました。これらの問題を修正しました。
> オペレーターが直前にネットワーククリップを編集した場合、ローカルXTサーバーの録画プロセスを開始/停止できないことがありました。 同様に、プレイリストの元に戻す/やり直し機能は、ネットワーククリップの編集後に機能しないことがありました。これらの問題を修正しました。

バージョン 1.9.20

> LSM-VIAとローカルのXTサーバー間の接続が、セットアップ全体のTimeCode設定の不一致により失われることがあった問題を修正。 LSM-VIA 1.9リリースでは、このような大量のTimeCode通知から保護するためのメカニズム

が含まれています。

> XClient-VIAハードドライブに十分な空き容量がない場合、LSM-VIAアプリケーションがログ抽出時にクラッシュすることがあった問題を修正。

> コントロールされているプレーヤーにロードされたメディアに多くのマークポイントが定義されている場合、再生時にLSM-VIAリモートレバーの反応に遅延が発生することがあった問題を修正。

> PGM & PRVチャンネル間でコンテンツをスワップする際、PGMチャンネルにロードされたメディアが一時停止している場合（例えばOUT点の境界上のクリップ）、PRVからスワップされたコンテンツがすぐに再生されず、0%に留まっていた問題を修正。

> LSM-VIA Viewerアプリケーションで、クリップのアングルを別のクリップの空きスロットに移動し、その後にクリップ全体をすばやく移動すると、クリップのアングルが更新されたクリップの残りの部分と一緒に正しく移動されないことがありました。 この問題により、LSM-VIAとEVSサーバーのデータベースの同期が取れなくなり、LSM IDでクリップを正しく呼び出せなくなることがあったのを修正。

> オペレーターがネットワークサーバー上のクリップコンテンツにアクセスしているときに、XNetの切断時にネットワーククリップの一部が削除されると、XNet上のサーバーの再接続後も、削除されたネットワーククリップがビューワークリップグリッドオペレーターに表示されたままになっていた問題を修正。

> LSM-VIAがXS-VIA Serverに接続されているとき、オペレータのプレイリストの最初のアイテムの速度が100%より低い場合、またはプレイリストにSLSMクリップが含まれている場合、XT Server上でプレイリストの再生をトリガーできなかった問題を修正。

> LSM-VIAがXS-VIA サーバーに接続されている場合、オペレータがプロダクションネットワーク上のXT-VIAサーバーからSLSM クリップを読み込んだり、XtraMotionで作成したSLSM クリップを読み込んだりしても、LSM-VIAのリモート再生ボタンまたはレバー、あるいは LSM-VIA Viewer アプリケーションの ALT+P キーボードショートカットから、ネイティブスピードでの再生をトリガーできなかった問題を修正。

> プレイリストがショットボックスに追加され、オペレータがLSM-VIAリモートパネルからこのプレイリスト内のプレイリストアイテムを移動しようとした場合（プレイリストがロードされているときに、Delete / Insertワークフロー）、LSM-VIAは削除されたプレイリストアイテムを希望の位置に挿入できなかった問題を修正。

> Add CUT機能を使用してプレイリストアイテムを分割するとき、LSM-VIAは、Mix 0 フレームトランジションではなく、オリジナルクリップの2ピース間のCUT トランジションを定義していた問題を修正。

> NTSC ドロップフレームにおいて、LSM-VIA Remoteに表示されるプレイリストの残り時間が、正しくなかった問題を修正。

> Search-TC機能を「Clip+REC」モードで使用した場合、クリップからレコードトレインに移動する際（およびその逆）、結果を確認する際に「Browse 」機能が自動的に無効になっていました。このような場合、オペレーターは手動で「Browse」機能を再度有効にする必要があった問題を修正。

> PRV CTRLモードでレコードトレインにマークポイントを定義し、PGMとPRVの両チャンネルを制御しながら最後のマークポイントを呼び出そうとすると、PGMはマークポイントが定義されたレコーダーを呼び出さず、現在のレコーダーに留まっていた問題を修正。

> スプリットスクリーンモードで、スプリットの一方で画像を移動すると、スプリットのもう一方の画像位置がリセットされることがありました。同様に、リモートパネルの制御モードをスプリットスクリーン制御モードと 「Multi-PGM」または「PGM+PRV」の間で更新すると、スプリットスクリーンモードでオペレータが定義した画像位置がリセットされることがあった問題を修正。

> LSM-VIAコンフィグレーションで定義されたVIA-Xsquareユーザーに関連付けられたObserverロールがRead & Modify権限を持っていない場合、LSM-VIAコンフィグレーションからの 「Connection Check 」は成功しますが、

LSM-VIAアプリケーションからVIA-Xsquareターゲットを取得できませんでした。LSM-VIA設定からの「Connection Check」は、エラーの詳細を含む適切なフィードバックを提供するようになりました(LSMVIA-15455)。

> LSM-VIAコンフィギュレーションでVIA-Xsquare IPアドレスフィールドが空の場合、オペレータがコンフィギュレーションの変更を保存できませんでした。回避策として、VIA-XsquareがProductionで使用されていない場合、このフィールドに手動で「0.0.0.0 」を入力する必要があった問題を修正。

> LSM-VIAセンタライズインストーラツールは、新しいソフトウェアバージョンが対象のXClient-VIAユニットに正しくデプロイされていても、エラーメッセージを生成していた問題を修正。

バージョン 1.8.54

> XNetネットワーク上で使用できなくなったネットワーククリップをLSM-VIA Remoteパネルのショートカットボタンにマッピングした場合、LSM-VIA Remoteパネルが正しく起動しないことがあった問題を修正。

バージョン 1.8.53

> LSM-VIAが接続されているローカルサーバーのMulticamをエンジニアが終了するときに、LSM-VIAがクラッシュすることがあった問題を修正。

> LSM-VIA設定のインポート機能が正しく動作せず、オペレーターがLSM-VIAステーションで設定をインポートできなかった問題を修正。

> LSM-VIAリモートでアクティブなプレイリストとして選択されている空のプレイリストスポットに、既存のプレイリストをコピーすると、LSM-VIAの様々なプレイリストインターフェイスは、コピー後に正しい名前を表示しますが、プレイリストアイテムの量は常に0と表示されていた問題を修正。。

> LSM-VIAリモートパネルのショートカットボタンに、XNetネットワーク上で利用できなくなったネットワーククリップがマッピングされている場合、LSM-VIAリモートパネルが正しく起動しないことがあった問題を修正。。

> LSM-VIA ViewerアプリケーションからTimeCodeの再リピート機能を使用する場合、マウスカーソルがTimeCodeまたはDateフィールドのいずれかにある場合、キーボードの ″ENTER ″キーを使用してTimeCodeの更新を確認できなかった問題を修正。。

バージョン 1.8.50

> クリップにマークポイントが含まれている場合、オペレータが「Last mark 」機能または「Browse 」機能を使ってマークポイントにアクセスしようとすると、LSM-VIAアプリケーションがクラッシュしていた問題を修正。

バージョン 1.8.49

> プレイリストを操作(編集)する際、CLEAR+IN、IN、OUT、CLEAR+OUTの組み合わせでクリップ間のIN/OUT点を変更できないことがあった問題を修正。

> MultiReviewを使用しているとき、オペレーターがあるワークスペースから別のワークスペースに移動すると、ワークスペース内ですべてのストリームが一時停止され、オペレーターは手動でLIVEに戻る必要があった問題を修正この問題により、オペレータは複数のワークスペースで複数のレコーダーを使用することができませんでした。

バージョン 1.8.45

> LSM-VIA設定ツールからLSM-VIAを再起動すると、LSM-VIAプロセスが応答しなくなることがあった問題を修正。このような場合の回避策は、LSM-VIAプロセスを手動で終了し、LSM-VIAも手動で再起動することでした。

> LSM-VIA Workstationからアプリケーションを閉じると、LSM-VIAがクラッシュすることがあった問題を修正。

> LSM-VIAアプリケーションが、ローカルEVSサーバーの録画プロセスを停止したとき、その後に再起動したときにも誤動作することがあった問題を修正。

> EVS Serverの録画プロセスが停止しているときに、アクティブなプレイリストで ″Sort by TC IN ″機能を使用すると、LSM-VIA アプリケーションがクラッシュすることがあった問題を修正。

> EVS Server の録画プロセスが停止しているときに、アクティブなプレイリストからすべてのアイテムを削除すると、LSM-VIA アプリケーションがクラッシュすることがあった問題を修正。

> LSM-VIAがローカルサーバーから複数のエラーメッセージを受信し、オペレーターに表示する場合（例えば ″Disk disconnection″）、エラーメッセージを1つずつ確認することができませんでした。最終的に、LSM-VIAリモートはENTERボタンが点滅し、他の機能が使用できない一貫性のない状態になっていた問題を修正。

> ローカルのEVSサーバーがXNetネットワークから切断された場合、LSM-VIAを使用してサーバーからの警告メッセージを確認でなかった問題を修正。
コラボレートなワークフローにおいて、LSM-VIAまたはIPDirectorから大きなプレイリストのプレイリストアイテムを複数選択して編集する場合、同じEVSサーバーに接続しているすべてのオペレーターの応答性に問題が生じることがありました。これにより、LSM-VIAが切断されることもあった問題を修正。

> プロダクションネットワークが大量にロードされているとき、プレイリスト にクリップを追加できなくなったり、他のプレイリストを選択できなくなったりすることがあった問題を修正。

> オペレーターがプロダクションネットワーク上の別のEVS Server からネットワークプレイリストをロードしているとき、同時にこのプレイリストが削除されると、LSM-VIA アプリケーションがクラッシュしていた問題を修正。

> 2人のオペレーターが同じEVSサーバーで作業しているとき（例：Op 1は ″PGM 1 & 2″、Op 2は ″PGM 3 & 4″）、最初のオペレーターがLSM-VIAを起動している間にもう一方のオペレーターがプレイリストをロードし、最初のLSM-VIAステーションがまだ動作している間にこの特定のプレイリストが削除された場合、最初のオペレーターはその後LSM-VIAを再起動できなかった問題を修正。

> LSM-VIAリモートからレバーを使用してプレイリストを長時間編集すると、LSM-VIAリモートが切断され、LSM-VIAアプリケーションがクラッシュすることがあった問題を修正。

> LSM-VIA Remoteを使用して、ロードされたプレイリスト内のアイテムを削除すると、タッチスクリーンに表示されるプレイリストインターフェースが、最初のプレイリストアイテムにジャンプすることがあった問題を修正。

> LSM-VIAのショットボックスにプレイリストをマッピングしてから削除すると、LSM-VIAのインターフェイスにはプレイリストが表示され、EVSサーバーにはプレイリストが表示されない問題を修正。

> LSM-VIAリモートから、2番目のPlaylistアイテムを削除して最初の位置に挿入し直すと、移動したPlaylistアイテムがリモートのPlaylistインタフェースに表示されなくなる問題を修正。LSM-VIA ViewerのPlaylistパネルには正しく表示されていました。

> プレイリスト編集モードからプレイリスト再生モードに移行するとき、またはその逆のとき、″ブラウズ ″機能が無効になっていた問題を修正。

> Alwaysモードで、オペレータがプレイリストから修正されたプレイリスト項目を削除すると、更新されたプレイリスト項目がPRVチャンネルに置かれ、オペレータは、編集を維持したまま、プレイリスト内の他の場所に挿入できます。
Delete操作後にViewerからオリジナルクリップを再読み込みした場合、PRVチャンネルはオリジナルクリップの変化点に正しくジャンプしますが、その後プレイリストにクリップを挿入した場合、LSM-VIAは未変更のオリジナルクリップではなく、更新されたプレイリストアイテムを挿入していた問題を修正。

> XNetの切断/再接続後にネットワーク上のサーバーのレコードトレインIDが変更された場合、LSM-VIAオペレーターはその後そのサーバーのレコードトレインにアクセスすることができなかった問題を修正。この動作は、ネットワーク上でサーバーのコンフィギュレーションが更新された場合（6 OUT > 4 OUT > 6 OUTに戻り、OUT 5と6のIDが異なる）、またはサーバー側で ″Clear Train ″が実行された場合にも発生します。

> オペレーターが ″Go to OUT ″機能と ″Play ″機能を連続して使用している場合、ある時点で ″Play ″機能が動作しなくなる問題を修正。

> PGMチャンネルとPRVチャンネル間でコンテンツをスワップするとき、PGMチャンネルにロードされたメディアが一時停止していると（例えばクリップがOUT境界にある）、PRVからスワップされたコンテンツがすぐに再生されず、0%に留まっていた問題を修正。

> クリップがShort-INとは異なるTimeCodeでPRVチャンネルにロードされ、オペレーターがON-Air再生用にPGMチャン

ネルでスワップしている場合、クリップのガードバンドOUTまで再生され、Short-OUTで再生が停止しない問題を修正。

> PGM & PRVチャンネルに同じNetwork Record Trainがロードされているときに、オペレーターがクリップを作成すると、サーバー上で同じアングルが2回作成されていた問題を修正。

> Network Edit by Network ″パラメータが ″No ″に設定されているNetwork Server上でクリップを作成しようとすると、LSM-VIAリモートがビープ音を発し、クリップが作成されない問題を修正。

> ネットワークサーバーからローカルサーバーにクリップをコピーする際、サーバーの ″Network Copy/Push ″パラメーターが ″Gigabit ″に設定されていると、LSM-VIAが ″Failed to copy clip ″エラーを表示することがあった問題を修正。クリップは最終的にローカルサーバーに正しくコピーされていました。

> ローカルのXTサーバーからプロテクトされていないクリップとプレイリストをすべて消去する際、プロセスが数分間停止することがあった問題を修正。ただし、実行の最後には、ローカルサーバーのプロテクトされていないコンテンツはクリアされていました。

> オペレーターが自分のPGMに異なるクリップをロードしており、オペレータがPGM 2またはPGM 3を制御している場合、LSM-VIAビューアからリストライプされたクリップは、それが最下の制御PGMでなくても、PGM1にロードされたクリップでした。ビューワーから実行されるリストライプTC機能は、リモート上の最下の制御PGMを考慮してトリガーされるようになりました。

> LSM-VIAが″=″文字を含むキーワードを許可していない問題を修正。

> LSM-VIA Viewerアプリケーションに統合されたVIA-Searchコンポーネントが、Production Networkから削除されたサーバーのクリップを表示したり、新たに追加されたサーバーのクリップを表示しなかったりすることがあった問題を修正。

> PGM+PRV モードで作業しているとき、割り当てられたプレーヤー名が LSM-VIA Remote インターフェイスの上部に正しく表示されていなかった問題を修正。

> LSM-VIAリモートからVSplitまたはHSplitモードで作業しているとき、そのモードがアクティブなときにオペレーターがLIVEに戻ると、リモートパネルで ″Picture Position ″機能が使用できなかった問題を修正。

> LSM-VIAリモートからSplitMixモードで作業し、オペレータが2つのソース間のMix%を編集している場合、Server MultiViewer上のOSDフィードバックを利用できなくなっていた問題を修正。ただしオペレータはMix%を調整することができました。

> XTAccessでEVSサーバー上のクリップをリストアする際、そのようなクリップがLSM-VIA Viewerアプリケーション内でいつまでもグローイング表示されることがあった問題を修正。

> EVS サーバーのネット名が空が場合、VIA-Xsquare を使用してプレイリストをフラット化できなかった問題を修正。

> VIA-Xsquare からExport ターゲットを追加/削除した場合、LSM-VIA Remote Shortcutsの編集インターフェイス（″Export″ カテゴリ）に表示されるターゲットのリストがリアルタイムに更新されなかった問題を修正。

> ログ抽出プロセスで、すべてのLSM-VIA Remoteログファイルが正しく取得されない問題を修正。

バージョン 1.7.39

> オペレーターがプレイリストの AUX クリップを連続して複数回更新すると、プロダクションネットワーク上の他の LSM-VIA ワークステーションに影響を与え、LSM-VIA アプリケーションを起動できなくなることがあった問題を修正。。

> LSM-VIA Remote でクリップを作成後すぐに別の XT Server にプッシュすると、クラッシュすることがあった問題を修正。

> プレイリスト編集モードで ″Other Angle ″機能にアクセスした後、オペレーターが素早くLIVE に戻ろうとすると、LSM-VIA がクラッシュすることがあった問題を修正。

> プレイリスト編集モードでプレイリストアイテム（新しい Short-IN または Short-OUT）をリトリムした後、オペレーターが LIVE に素早く戻ると、LSM-VIA がクラッシュすることがあった問題を修正。
> LSM-VIA MultiRevie アプリケーションのコンテキストで、LSM-VIA が取り込んだ Navcast Strems 内でエラーが発生した場合、LSM-VIA Workstation 上で大量のログファイルが生成され、Extract Logs 機能で問題が発生していた問題を修正。
> LSM-VIA MultiReviewアプリケーションのコンテキストで、LSM-VIA がレコーダーのストリームに空のコンテンツ（グレー画像またはカラーバー）を取り込んでいる場合、MultiReview モードでレコーダー内をブラウズバックできななることがあった問題を修正。
> LSM-VIA Viewer アプリケーションからアクティブなプレイリストにクリップを追加する際、アプリケーション内でフォーカスが失われ、Name フィールドにコンテンツを入力することができなかった問題を修正。

バージョン 1.7.31

> オペレーターがプレイリストからプレイリスト項目を削除しているときに、同時にそれらをロードしようとすると、LSM-VIA がクラッシュすることがあった問題を修正。
> LSM-VIA Viewer アプリケーションから Pages & Banks 内でクリップを素早く移動すると、一部のクリップアングルがクリップグリッドに表示されなくなることがあった問題を修正。
> 2 人の LSM-VIA オペレーターが同じローカルの XT サーバーで作業している場合、2 人目のオペレーター（入力 2 をモニタリング）が、ラストマーク機能を使用して正しいカム上のマークポイントを呼び出すことができなかった問題を修正。

バージョン 1.7.30

> 一部のオペレーターは、コントロールされているプレーヤー上で長時間ジョギングを行った場合、ローカルサーバー上で応答性の問題を経験していました。この問題は、高負荷の大規模セットアップで発生しやすくなっていました。一部のケースでは、アプリケーション全体が正常に動作しなくなることがあった問題を修正。
> プレイリスト編集中またはプレイリスト再生中に、LSM-VIA が予期せず LIVE に戻ることがありました。この動作は、ローカルの EVS サーバーと LSM-VIA 間のやりとりにおいて、Multicam 内の一時的なアイドルプレーヤーの状態に関連していました。このような状態を適切に管理するため、アイドルプレーヤーチャンネル専用のリモートモードを導入しました。その結果、プレーヤーチャンネルが不意にライブに戻ることはなくなりました。オペレーターは、適切なコントロールモードに戻るために、サーバーから送信されるプレーヤーのステータス更新を待つか、手動で LIVE に戻ることができます。今後のリリースでは、このようなアイドルプレーヤーの通知をフィルタリングし、使用感を改善するために、現在のメカニズムを改善する予定です。
> 一部の EVS サーバーが XNet-VIA ネットワークから切断/再接続されると、LSM-VIA アプリケーションがアンマネージドエラーによりクラッシュすることがあった問題を修正。

バージョン 1.7.27

> レコード トレインをプレイリスト アイテムとして含むプレイリストをロードすると、LSM-VIA がクラッシュしていた、（これは IPDirector からのみ実現できます)問題を修正。

バージョン 1.7.26

> オペレーターが LSM-VIA Viewer アプリケーションからサーバー ページとバンクをすばやく移動しているときに、LSM-VIA が応答しなくなることがあった問題を修正。
> VarMax、PGMSpeed、または Second Lever Range が有効になっているときに LIVE に戻ると、機能が非アクティブになり、レバー範囲がデフォルトにリセットされていた問題を修正。

> LSM-VIA Viewer アプリケーションの Search 機能は過剰なログを生成し、ハードドライブが飽和状態になり、ログ アーカイブが大量に蓄積されていた問題を修正。

バージョン 1.7.25

> LSM-VIA と LSM-VIA MultiReview の両方のライセンスが同時に期限切れになると、オペレータがライセンス情報ポップアップを検証するときに、起動時に LSM-VIA Viewer アプリケーションがクラッシュすることがあった問題を修正。

バージョン 1.7.17

> LSM-VIA 1.7.14 ISO が展開されたとき、LSM-VIA アプリケーションのログはすぐには機能しませんでした。回避策として、ISO の展開後に LSM-VIA 1.7.14 アプリケーション（AppImage パッケージ）を再インストールする必要があった問題を修正。

> センタライズ インストーラ ツールで“forceInstall”オプションが False に設定されている場合でも、LSM-VIA はすべての XClient-VIA ハードウェアにインストールされたままだった問題を修正。

バージョン 1.7.14

> LSM-VIA Viewer アプリケーションが起動時にクラッシュすることがあった問題を修正。

> LSM-VIA アプリケーションは、クリップを再トリムし、ライブに戻り、更新されたクリップを素早いシーケンスで再ロードするときにクラッシュすることがあった問題を修正。

> XNet のサーバーがネットワークにすぐに再接続または切断すると、LSM-VIA アプリケーションがクラッシュすることがあった問題を修正。

> クリップの名前が TSL プロトコルから変更され、新しい名前に特殊文字が含まれる場合、ローカル EVS サーバーへの接続が中断されることがあった問題を修正。

> LSM-VIA リモコンからは、指定したフィールドにマーク ポイントを設定できませんでした。さらに、特にプログレッシブ フォーマットでは、LSM-VIA オペレーターは指定フィールドに IN ポイントや OUT ポイントを設定できなかった問題を修正。

> クリップを素早く作成すると、クリップが長時間にわたって拡大するように表示されることがあった（ビューアーの回転ホイールとリモコンの F キーの点滅)問題を修正。

> 状況によっては、LSM-VIA Viewer のクリップ グリッドに表示されるクリップ コンテンツが、EVS サーバーの実際のデータベースと一致しなくなった問題を修正。

> LSM-VIA Viewer からクリップをカット＆ペーストすると、一部のクリップ アングルが Viewer のクリップ グリッドに表示されなくなることがあった問題を修正。

> LSM-VIA Viewer からクリップ アングルを削除し、その後クリップがローカル サーバーにロードされると、LSM-VIA リモコンの A-B-C-D-E OLED に既存の正しいアングルが表示されないことがあり、オペレーターがロードされたアングルを変更すると、対応するボタンが誤動作することがあった問題を修正。

> クリップを PRV から PGM チャネルにスワップするときに、プレイアウトが PGM チャネルで一時停止された場合、定義されたクリップ ポストロールはスワップ後に PGM で再生されなかった問題を修正。

> プレイリスト素材の編集と削除を同時に行うと、LSM-VIA アプリケーションがクラッシュすることがあった問題を修正。

> オペレーターがプレイリスト素材内に CUT を追加しているときに、LSM-VIA アプリケーションがクラッシュすることがあった問題を修正。

> EVS サーバーが制御されたチャンネルで LIVE に移行しているときに、プレイリストの再生後に E/E を押したときに、LSM-VIA リモートの LIVE モードに戻れない場合があった問題を修正。

> プレイリストを操作する場合、オペレーターが要求していないにもかかわらず、LSM-VIA がライブに戻ることがあった問題を修正。

> Audio Split シナリオで、オペレーターがトランジション エフェクトのデュレーションを編集しているとき（オーディオとビデオの両方を同時に)、2 つのクリップ間のトランジション ポイントが正しくありませんでした。
2 番目のクリップの OUT ポイントも同様に影響を受け、結果として次のトランジションに影響を与えた問題を修正。

> LSM-VIA Viewer アプリケーションからアクティブなプレイリストに挿入されたクリップは、LSM-VIA で定義されたデフォルトのトランジションではなく、CUT トランジションを使用して挿入されることがあった問題を修正。

> LSM-VIA Viewer アプリケーションからアクティブなプレイリストに挿入された SLSM クリップは、

LSM-VIA で定義された“Insert SLSM at Native Speed”パラメータに従うのではなく、Unkown 速度で挿入された問題を修正。

> 単一のプレイリスト素材を含むプレイリストを再生する場合、Loop パラメーターは考慮されなかった問題を修正。

> プレイリスト素材間の CUT トランジションを使用して LSM-VIA からプレイリストをフラット化すると、結果のクリップのトランジション ポイントに誤ったフレームが挿入される場合があった問題を修正。

> VIA-Xsquare パスワードは、LSM-VIA コンフィグ ソース ページからプレーン テキストで表示された問題を修正。

> “Hashicorp Consul”コンポーネントは、LSM-VIA ISO とともに展開されました。
このコンポーネントは、関連するセキュリティ問題のため、LSM-VIA パッケージから削除されました。

> **XClient-VIA ユニットに以前にデプロイされた TeamViewer バージョンで、いくつかのセキュリティ脆弱性が検出されました。**
これらの脆弱性を修正するために、TeamViewer の最新バージョンは LSM-VIA 1.7 ISO に統合されました。
この修正の恩恵を受けるには、完全な LSM-VIA 1.7 ISO を展開するか、フォトロンに問い合わせて TeamViewer を手動でアップグレードすることができます。

バージョン 1.6.33

> LSM-VIA リモコンが、大規模なネットワーク環境で切断されることがよくあった問題を修正。

> XT サーバーと LSM-VIA アプリケーション間の接続が正しく機能しないことがあり、その結果、リモコンからトリガーされた操作がサーバー側に影響を与えなかった問題を修正。

バージョン 1.6.29

> PGM+PRV でプレイリストを編集しているときに、LSM-VIA アプリケーションがクラッシュすることがあった問題を修正。

> プレイリストからプレイリスト素材を削除すると、LSM-VIA アプリケーションがクラッシュすることがあった問題を修正

> ネットワークの中断後に LSM-VIA アプリケーションを再起動すると、クラッシュすることがあった問題を修正。

> オペレーターが離れた場所にある XT サーバー上で非常に迅速に（IN/OUT/保存）クリップを作成していると LSM-VIA アプリケーションがクラッシュすることがあった問題を修正。

> オペレーターが LSM-VIA リモートでユーザー定義のショートカットを設定/使用しているときに、LSM-VIA アプリケーションがクラッシュすることがあった問題を修正。

> オペレーターが LSM-VIA リモートでユーザー定義のショートカットを編集していて、VIA-Xsquare が利用可能なターゲットのリストを LSM-VIA に送信するのに時間がかかりすぎていたとき、LSM-VIA アプリケーションがクラッシュすることがあった問題を修正。
具体的には、VIA-Xsquare がまだターゲットを送信していないときに、オペレーターがショートカット編集画面を閉じていたときです。

> ローカル XT サーバーに保存されたクリップにマーク ポイントが設定されている場合、LSM-VIA が正常に起動しない場合があった問題を修正。

> コンフィグサービスのクラッシュが原因で、XClient-VIA の再起動後に LSM-VIA コンフィグにアクセスできないことがあった問題を修正。

> 非常に大規模なセットアップ（XNet-VIA ネットワーク上の膨大な数の XT サーバー）では、レコード トレインの一部を VIA-Xsquare ターゲットに直接エクスポートできないことがあった問題を修正。
回避策として、オペレーターは最初にローカル サーバーでクリップを作成する必要がありました。

> XNet-VIA ネットワークが頻繁に更新される大規模なセットアップでは、VIA-Search サービス データベース内の同じキーワードに対して複数のエントリが作成される可能性があります。
その結果、オペレーターは、ネットワーク上でクリップを見つけるためにフィルターとして同じキーワードを複数回設定する必要があった問題を修正。

> PGM+PRV で作業しているときに、SLSM フィードが PGM チャネルにロードされ、標準フィードが PRV チャネルにロードされた場合、オペレータは PRV CTRL モードで PGM のレバーを使用して SLSM スイート スポットにアクセスできなかった問題を修正。

バージョン 1.6.19

> LSM-VIA アプリケーションがクラッシュした場合、手動でプロセスを強制終了するか、XClient-VIA ユニットを

再起動しないと、後で再起動できない場合があった問題を修正。

- LSM-VIA Viewer から、クリップを複数選択し アクティブなプレイリストに追加する時、デフォルト トランジションにAudio Splitが含まれていて、一部のクリップにスプリット トランジションを再生するのに十分なガードバンドがない場合、プレイリストに複数選択の一部が挿入される問題を修正。
- VIA-Search コンポーネントから複数のクリップを選択してアクティブなプレイリスト（LSM-VIA Viewer）に追加すると、一部のクリップが無視され、挿入されなかった問題を修正。
- LoopとPost-Rollが同時に有効になっている場合、クリップまたはプレイリストをロードまたは再生することはできなかった問題を修正。
- PGM+PRV では、ロードされたレコード トレインでオペレーターが IN または OUT ポイントを定義した場合、ロードされたコンテンツをPGM チャンネルと PRV チャンネル間で交換することができなかった問題を修正。
- マーク ポイントを使用する場合、LSM-VIA Remote パネルの"Last Mark"キーを使用して一部のポイントに到達できないことがあった問題を修正。
- LSM-VIA Viewer のSearch機能は、同じネットワーク内のすべてのユニットで同じ結果を出力しない場合があった問題を修正。
- クリップ用の LSM-VIA Viewer の VIA-Search UI に表示される TimeCode 情報（Short IN、Short OUT）が正しくない場合があった問題を修正。
- クリップ用の LSM-VIA Viewer の VIA-Search UI に表示されるデュレーション情報が空だった問題を修正。
- ローカルXT サーバーから、保護されていない全てのクリップとプレイリストをクリアすると、全てのプレイリストは適切に削除されましたが、一部のプレイリストに保存されているクリップが削除されないことがありました。サーバーのコンテンツを効果的に消去するには、ユーザーは"Clear all Clips & Playlists"をもう一度実行する必要があった問題を修正。
- プレイリストをローカル XT サーバーにフラット化すると、結果のクリップが数分間作成状態のままになることがあった問題を修正。
- 同じネットワーク上で XT-VIA と XT3/XT4K サーバーが混在する環境で作業している場合、XT-VIA サーバーで作業している LSM-VIA オペレーターは、XT3/XT4K サーバーから VIA-Xsquare ターゲットにクリップをエクスポートできなかった問題を修正。
- L Clip モードで、クリップをネットワーク サーバーからローカル サーバーに移動してから、ローカル サーバーの別の位置に移動すると、2回目の移動操作が機能しない場合があった問題を修正。
- クリップで Move 操作が失敗した場合、オペレーターは自分のページとバンクでそのクリップを移動できませんでした。回避策は、クリップをコピーしてからソースを削除することだった問題を修正。
- 一部の特殊文字（日本語の文字セットなど）が LSM-VIA Remote Screenで正しく表示されなかった問題を修正。

既知のバグと制限事項

既知のバグ

> プレイリストアイテムがオーディオスワップキーフレームを含む場合、オペレータが定義されたオーディオスワップキーフレームの前にプレイリストアイテムのOUT境界を再定義した場合、キーフレームはプレイリスト項目から削除され、後でオペレータがプレイリスト項目でCLEAR+OUTを使用しても復元されません。

> プレイリスト内でSLSM クリップの速度がunknownに設定されている場合、プレイリストの残デュレーションが正しくなくなる可能性があります。

> LSM-VIA リモコンパネルから、プレイリスト素材のSpeedまたはEffect Duration で Edit All を使用する場合すべてのプレイリスト インターフェイスで実際の値の更新がスムーズではありません。

> プレイリストの ″元に戻す ″UNDOを使用する場合、LSM-VIAのリモート画面に表示されるプレイリストのインターフェースは、アクティブなアイテムに素早く戻るために、一時的に最後のプレイリストアイテムにジャンプすることがよくあります。 プレイリスト項目の ″削除 ″操作の後に ″UNDO ″操作を行うと、プレイリスト・インターフェイスは、それまでアクティブだったプレイリスト項目とは異なるプレイリスト項目に戻ることがあります。

> プレイリストがネットワークサーバーからのクリップを含み、それらのプレイリストアイテムがオペレーターによってリトリムされる場合、Undo/Redoコマンドを実行した後、MultiViewer OSD上でプレイリストアイテムの継続時間が正しく表示されない場合があります。

> プレイリスト・プレイアウト・モードでは、スキップ＆ネクスト機能は最後のプレイリスト・アイテムでは機能しません最後のプレイリスト項目は、常にサーバーによって再生されます。

> ループでプレイリストを再生しようとするとき、プレイリストがCUTトランジションを持つ単一のプレイリスト項目を含むか、プレイリストがプレイアウト・モードでロードされるときに、再生コマンドがトリガーされる場合、それは正しく動作しません。さらに、そのようなシナリオで表示される残りの持続時間は、正しくありません。

> クリップが Loop で再生されているときに、オペレーターが 2 番目の Loop 中にもう一度 “Play” を押すと、クリップ ループはクリップのガードバンドを再生します。

> オペレーターが読み込んだクリップのShort-INを再定義し、その後クリップを素早く再読み込みすると、LSM-VIAが更新されたShort-INに行かず、以前のShort-INに行くことがあります。

> オペレータがLSM-VIA Viewerアプリケーションからクリップのの TimeCodeをリストライプし、直後に2回目の ″Restripe-TC ″ポップアップにアクセスした場合、LSM-VIAは更新されたTimeCodeの代わりに以前のTimeCodeを表示します。

> XTサーバー間でクリップアングルを移動する際、移動元クリップのLSM IDが移動先サーバーに存在する場合、いくつかの追加アングルが作成されます。例として、クリップ111AとBをサーバー01からサーバー02の121AとBに移動するとき、クリップ111がサーバー02に存在する場合、サーバー02の111のアングルに基づき、サーバー02のクリップ121に追加のアングルが作成されます。

> 複数のプレーヤーをコントロールする場合、リモートパネルからすべてのマークポイントをクリアすると、「Clear all Marks： XT Server MultiviewerのOSDに表示される ″Cancel/Confirm ″メッセージは、制御されている最小のプレーヤからは正しくクリアされますが、他の制御されているプレーヤには表示されたままになります。メッセージを完全に消去するには、ユーザーはロードされたコンテンツをブラウズし、LIVEに戻らなくてはなりません。

> LSM-VIAからローカルXTサーバーのレコードプロセスを停止できないことがあります。

> LSM-VIAリモートからのE/Eキーは、Multicamの ″Record Key ″パラメーターが停止したまま設定されている場合でも、常にローカルEVSサーバーのレコードプロセスを再開します。

> LSM-VIA MultiReview機能が有効な場合、LSM-VIAアプリケーションが予期せず終了すると、オペレーターは最大5分間LSM-VIAを再起動できないことがあります。このような場合、ライセンシングサービスはMultiReviewライセンスを適切にリリースできず、ユーザーは5分間のタイムアウトが終わるのを待たなければなりません。

> コントロールされているプレーヤーにプレイリストがロードされている状態でマルチレビューモードを有効にするとEVS Server MultiViewerのPRV OSDが影響を受け、プレイリスト情報が正しく表示されなくなります。

> ビデオ・インターフェースに40以上のストリームがマッピングされたMultiReviewモードを使用し、同時にVIA-Searchを使用する場合、オペレータはSearchインターフェースの動作が遅くなることがあります。これは特にXClient-VIAの最も古いモデルに影響します。

> LSM-VIAのコンフィグレーションから「VIA-SEARCH Deployment Mode」の設定を変更し、コンフィグレーションからLSM-VIAアプリケーションを再起動すると、VIA-SEARCHサービスが正しく起動せず、VIA-SEARCHアプリケーション

が利用できなくなることがあります。この場合、LSM-VIAアプリケーションを停止し、LSM-VIA設定ポップアップではなくデスクトップから手動で再起動する必要があります。

> LSM-VIAの設定で「EVSサーバIPアドレス」パラメータを変更し、その後LSM-VIAを起動すると、LSM-VIA Viewerで利用可能なVIA-Search機能が正しく動作しなくなることがあります。 回避策としては、LSM-VIAを終了し、LSM-VIA設定の「VIA-Search Deployment Mode」パラメータでVIA-Searchを無効化/有効化し、LSM-VIAを再起動します。

> 起動時にEVSサーバーが利用可能でない場合、VIA-Searchサービスが正しく初期化されないことがありました。このようなシナリオでは、EVSサーバーが完全に起動し利用可能な状態であっても、VIA-Search機能は利用できないままとなります。この問題は通常、LSM-VIAの起動時にEVS Serverサービスが無効になっているか、まだ起動していない場合に発生します。回避策としては、「stardust-xt」Dockerコンテナを手動で停止し、LSM-VIAを再起動することで、新たに接続を試みることができます。また、LSM-VIAを一時的にネットワーク上の別のEVSサーバに接続し、元のEVSサーバに戻してLSM-VIAを再起動することで、VIA-Searchサービスを新たに初期化することもできます。

> LSM-VIAワークステーションのDNSサーバーのコンフィギュレーションが正しくない場合、オペレータはLSM-VIAの起動時に、ライセンスサービスに関連し、かなりな待ち時間が発生する可能性があります。回避策として、DNSサーバーが正しく設定されていることを確認してください。

> リモートパネルの LSM-VIA バージョンが 1.8 以上で、リモートパネルのリカバリを実行した場合、また、その後 LSM-VIA ワークステーションに接続しても、リモートパネル上で LSM-VIA のアップデートができない場合、その場合、OS の手動アップデートが必要になります（LSM-VIA インストールガイドの「リモートパネルの OS アップグレード（工場出荷時インストール）」手順を参照）。工場出荷時インストールでは、最新バージョンのオペレーティングシステムが導入され、リモートパネルのリカバリパーティションも更新されます。

制限事項

> **LSM-VIA は、マルチオペレーターコンフィグでのプレーヤー チャネル ロックメカニズムをサポートしません。このような構成では、複数のオペレーターが同じプレーヤーチャンネルを制御することを避けるために、ユーザーは細心の注意を払う必要があります。**
> **この制限により、製品の予期しない動作が発生する可能性があります（たとえば、オペレーターが同じチャンネルで異なるプレイリストをロードして再生している場合）。**

> **LSM-VIA アプリケーションの実行中に、Multicam VGA 画面からクリップまたはプレイリストを操作することはサポートされていません。**
> **これにより、EVS サーバーとLSM-VIAの間でデータベースの非同期が発生し、LSM-VIA Viewer でサーバーのコンテンツが適切に表示されなくなる可能性があります。**

> 操作負荷が高い場合、オペレーターはクリップ作成ワークフローで速度が低下する可能性があります（クリップがビューアーに表示されるのが遅くなり、F キーがハイライトされるのが遅くなります）。

> アクティブなプレイリストに多数の素材が含まれている場合、または XT サーバーに多数のクリップが含まれている場合、LSM-VIA リモコン パネルの起動または再接続に時間がかかることがあります。

> “Switch to IN” はデフォルトで常に有効になっています。ただし、現在の実装はクリップでのみ機能します。保留中の IN / OUT ポイントを持つレコード トレインが制御対象のチャンネルにロードされている場合、“Switch to IN” が適切に管理されません。

> LSM-VIA を使用すると、オペレーターは、ロードされたリモート レコード トレインとプレーヤーを同期できますがプレイアウトは一時停止されます。

> “Take” でサポートされているエフェクト トランジションは Mix のみで、他の TAKE トランジションはまだサポートされていません。

> Viewer からクリップの複数選択をコピーまたは移動する機能はまだサポートされていません。

> 特定の XT-VIA サーバー上で移動されているクリップは、LSM-VIA Shotbox から削除されます。

> クリップの移動中、オペレーターは LSM-VIA リモコン F キーまたは LSM-VIA Viewer でフィードバックを受け取りません。LSM-VIA は、移動操作が完了すると通知を提供します。

> Viewer からのメタデータの編集はまだ利用できません。

> “Go to TC” および “Search TC” の “User TC” および “From/To date” オプションはまだサポートされていません。

> オペレーターが “Go to TC” 機能を使用して特定のタイムコードにジャンプし、その後ロードされた CAM をすぐに変更すると、制御されているプレーヤーがユーザー定義のタイムコードにとどまらずに LIVE に戻ることがあります。

> VIA-SEARCH 展開設定を “Local” に設定して LSM-VIA アプリケーションを起動すると、アプリケーションと同時に VIA-Search サービスが起動します。
> これらのサービスが起動して実行されるまでに約 30 ～ 40 秒かかる場合があるため、オペレータが LSM-VIA の起動直後に検索インターフェイスにアクセスすると、オペレータは数秒間インターフェイスを適切に使用できなくなり、この期間中、“Oups something went wrong” という通知が表示される可能性があります。

> LSM-VIA Viewer の Search Panel インターフェイスの自動更新の最小値は 5 秒です。
> 従って、検索結果のクリップに加えられた更新（移動、削除、キーワードの編集など）を視覚化するまでに最大 5 秒かかる場合があります。

> LSM-VIA ViewerアプリケーションのVIA-Search UIからクリップを削除することはサポートされておらず、システム的にエラーメッセージが表示されます。

> クリップの作成方法によっては、LSM-VIA Viewer の VIA-Search UI に作成日情報が表示されない場合があります。この情報は、LSM-VIA から作成されたクリップに対して適切に利用可能です。
> ただし、クリップが Gbe 経由でプッシュされた場合などは利用できません。

> Audio Splitでは、オーディオ/ビデオトラックに対して意味をなさないトランジション時間（例えば、前後のプレイリスト項目よりも長いトランジション）を定義しようとすると、オペレータはエラー通知を受け取ります。

> オーディオ スプリットによる再生不可能なプレイリストトランジションを克服するために実装されたリセットメカニズムは、実際のリセットの場合にオペレーターに警告通知を表示しません。

> プレイリストがオーディオ分割を伴うトランジションを含み、トランジションの継続時間がプレイリスト内ですべて同じでない場合、プレイリスト再生モードのスキップ & ネクスト機能は正しく機能しません。スキップ＆ネクストコマンドは、異なるトランジション持続時間とオーディオスプリットでのプレイリストアイテムの再生では、XTサーバーによって拒否されます。
> 速度が 300% を超える素材を含むプレイリストのフラット化はサポートされていません。
> プレイリストが Loop で再生されているときに、オペレーターが最後のプレイリスト素材でループを無効にしようとすると、再生は続行され、プレイリストがもう一度再生されます。
> プレイリストが Loop で再生される場合、“Next” コマンドは最後のプレイリスト素材では機能しません。
> クリップまたはプレイリストの再生中に Loop と Post-Roll が同時に有効になっている場合、ポストロールのデュレーションは無視されます。
> ローカル プレイリストをネットワーク上の別のサーバーにコピーすることはまだサポートされていません。
> リモコン パネル画面上で複数のプレイリストを並べて表示することはまだサポートされていません。
> LSM-VIA コンフィグからオペレーターに割り当てられたサーバー プレーヤーによっては、一部のオペレーターは Always Mode でプレイリストをロードできない場合があります (Conditional Mode 常に機能しますが)。
Always Mode でのプレイリストのロードは、PGM1&2、PGM3&4、または PGM5&6 でのみ可能です。
サーバー プレーヤーの他の組み合わせはサポートされていません。
> XT-VIA サーバーで Mix-on-1-channel が OFF に設定されている場合、LSM-VIA に表示されるプレイリストデュレーションは必ずしも正確ではありません。
> LSM-VIA は、IPDirector の ABRoll 機能と互換性がありません。
> LSM-VIAは、プレイリストアイテムとしてレコードトレインを含むIPDirectorプレイリストをサポートしていません。
LSM-VIAはそのようなプレイリストをアクティブシーケンスとして許可しますが、そのようなプレイリスト項目の編集は機能しません。
> Timeline 機能はまだサポートされていません。
> XClient-VIAとVIA-Xsquareが異なるPC LANネットワーク上にある場合、LSM-VIAにエクスポート/フラット化ジョブの通知が表示されません。
> Firefox ブラウザで LSM-VIA 設定ページを開くと、Firefox のバージョンが 60.x 以前の場合、一部のドロップダウン メニューが機能しなかったり、誤動作したりすることがあります。
> コンフィグインターフェースは、リモコン パネルからはまだ利用できません。
> LSM-VIAコンフィギュレーションに導入されたインポート/エクスポート機能は、LSM-VIAの2つのメジャーリリース間で互換性がありません。具体的には、ユーザー定義のLSM-VIAリモート・ショートカット、Shotboxコンテンツ、Trainsフィルターのバックアップとリストアです。
> Hypermotion は、LSM-VIA リモコン パネルではサポートされていません。このオプションは、LSM-VIAと一緒にサーバー側でアクティブ化しないでください。
> LSM-VIA Viewer を表示するためにサポートされている解像度は、1920x1080 のみです。
> オペレーターごとに複数のリモコンパネルを持つ機能はまだサポートされていません。各オペレーターは独自の XClient-VIA を持っている必要があります。
> XClient-VIAのPC LANアドレス更新時、およびその後のLSM-VIA起動時、Export&FlattenワークフローVIA-Xsquareジョブの進捗通知を受け取らなくなりました。回避策は、ネットワーク設定の更新後にXClient-VIAを再起動することです。
> XClient-VIAユニットにRocky Linux ISOイメージをインストールしてLSM-VIAをアップグレードする場合、LSM-VIAのデスクトップショートカット（Licensing Manager、ConfigurationまたはLSM-VIA）が正しく動作せず、グレーアウトして表示されることがあります。動作不良のショートカットをダブルクリックしようとすると、「信頼できないデスクトップファイル」という警告が表示されます。このような問題を解決するには、正しく動作しないデスクトップ・ショートカットを右クリックし、「起動を許可」オプションを選択します。この操作は、新しいISOを展開した後に一度だけ行う必要があり、その後、デスクトップアイコンがシステムから正しく信頼されるようになります（再起動またはLSM-VIAの定期的なアップデートの場合）。

互換性

ソフトウェア

> Multicam 21.0 (以降のパッチ含む)とのみ互換性があります。
> XT-VIA Multicam LSMモード, SpotboxまたはSportlightモードと互換性があります。
> XS-VIA XSenseモードと互換性があります。
> XT-GO Sportlightモードと互換性があります。
> VIA-Xsquare 4.13 (以降のバージョン含む)と互換性があります。
> Cerebrum 2.3 と互換性があります。
> LSM-VIA isoではRocky Linux 9.5-1.2が組み込まれています。

ハードウェア

> LSM-VIAはXClient-VIAハードウェアにインストールできます。
> LSM-VIAは、PMZまたは同様のハードウェア上に仮想マシンとしてデプロイできます。 ただし、LSM-VIA MultiReviewアドバンスモードはVirtual Machine上ではまだサポートされていません。

配置

> センタライズインストーラーツールを使用して複数のユニットにLSM-VIAをデプロイする場合でも、新しいバージョンのデプロイを開始する前に、XClient-VIAユニットでLSM-VIAアプリケーションを正しくシャットダウンする必要があります。
> CentOSでのLSM-VIA 1.7またはLSM-VIA 1.8からLSM-VIA 1.10へのアップグレードには、XClient-VIAユニットへのRocky Linux ISOイメージのインストールと、その後のワークステーションの完全な再構成も必要です(LSM-VIAインストール・ガイドの「XClient-VIAの展開」手順を参照)。 さらに、LSM-VIAリモートパネルのオペレーティングシステムも手動でアップデートする必要があります(LSM-VIAインストールガイドの「リモートパネルのオペレーティングシステムのアップグレード(工場出荷時インストール)」手順を参照)。
> Rocky Linux ISOイメージのインストールを開始する前に、EVSから受け取った既存のライセンスファイルをどこかに保存しておくことをお勧めします。 同様に、キーワードファイル、XClient-VIAとLSM-VIAリモートユニットのネットワーク設定、LSM-VIAインフラ設定のバックアップを保存しておくことを強くお勧めします。 インストールプロセスでは、LSM-VIAワークステーションのシリアル番号(SN)の入力も必要です。
> LSM-VIAリモコンとXClient-VIAハードウェアは常に同じ場所(ネットワーク内)にある必要があり、分散アーキテクチャ内に配置しないでください。
  - 2つのハードウェア間のラウンドトリップタイム(RTT)は最大20msです。
  - LSM-VIAワークステーションが仮想化されている場合でも、LSM-VIAリモコンと仮想マシン間のレイテンシーは20msを超えてはなりません。
> LSM-VIA MultiReview アドバンスト モードには、特定のデプロイと構成が必要です。
実際、このモードでは、XClient-VIA は EVS サーバーからマルチキャストされたプロキシストリームを受信し、スイッチを介して制御ネットワーク (PC LAN) にルーティングする必要があります。
詳細については、*LSM-VIA 1.7 Intallation and Configuration Manual* および *EVS Network Design Guide* を確認してください。
> リモート(LSM-VIAとXTサーバーが異なる場所)で作業する場合、XClient-VIAとXTサーバー間の最大推奨ラウンドトリップタイム(RTT)は100 msです。
製品の使いやすさと全体的なユーザーの体感は、レイテンシーが長くなると低下します。

以上